

## 第213回 全経簿記検定試験 上級 一原価計算一

## 模範解答

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保証するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

## 問題1 [予想配点：丸数字は点数を示す、合計52点]

## 問1

製品P [ ⑤ 2,100 ] 円/個      製品Q [ ⑤ 3,000 ] 円/個

## 問2

製品P [ ⑤ 6,000 ] 個      製品Q [ ⑤ 250 ] 個  
 営業利益 [ ② 5,020,000 ] 円

## 問3

製品P [ ⑤ 4,500 ] 個      製品Q [ ⑤ 2,000 ] 個  
 営業利益 [ ② 7,120,000 ] 円

## 問4

製品P [ ⑤ 5,000 ] 個      製品Q [ ⑤ 2,000 ] 個  
 営業利益 [ ② 7,250,000 ] 円

## 問5

本問における投資案は採用すべきである。理由は、この投資案により、これまでボトルネックであったプロセスAの生産能力が向上し、プロセスBにおける1,500時間の遊休時間を解消した結果、営業利益が130,000円増加するためである。 ⑥

問題2〔予想配点：丸数字は点数を示す、合計48点〕

問1

〔 ⑤ 変動製造マージン 〕

問2

損益分岐点売上高 〔 ⑤ 3,000,000 〕 千円

安全余裕率 〔 ⑤ 25 〕 %

問3

経常利益段階での損益分岐点を算定する場合、営業外損益は固定費の修正項目として取り扱う。 ⑤

その理由： 営業外損益は営業量の増減とは無関係に発生するため。 ④

問4

経営レバレッジ係数 〔 ⑤ 4 〕

計算過程 ③

$$2,400,000 \text{ 千円 (貢献利益)} \div 600,000 \text{ 千円 (営業利益)} = 4 \text{ (経営レバレッジ係数)}$$

問5

営業利益増加額 〔 ⑤ 240,000 〕 千円

計算過程 ③

$$10\% \text{ (売上高増加率)} \times 4 \text{ (経営レバレッジ係数)} = 40\% \text{ (営業利益増加率)}$$

$$40\% \text{ (営業利益増加率)} \times 600,000 \text{ 千円 (1期の営業利益)} = 240,000 \text{ 千円 (営業利益増加高)}$$

問6

全経電気の安全性は **改善した** ・ 悪化した ・ 不変である。←○で囲むこと。 ④

その理由： 経営レバレッジ係数が4から3に減少しているため。 ④

〔別解〕安全余裕率が25%から31%に上昇しているため。